

令和7年産

大崎稲作情報 第4号

令和7年7月2日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

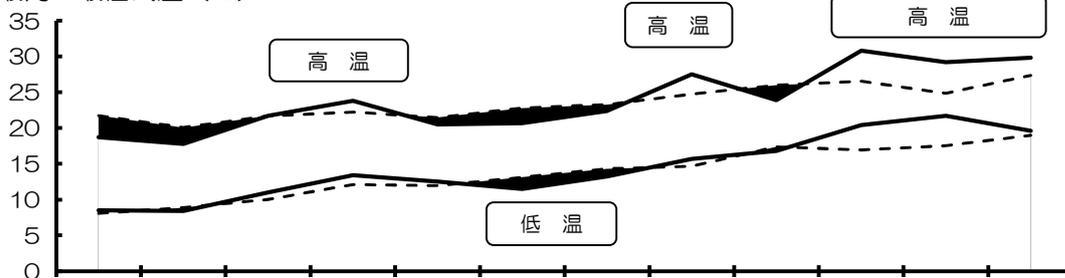
今後の管理のポイント

- ✓ 収量の増加や品質の向上のため、適切な追肥を行きましょう。
- ✓ 中干し後～幼穂形成期の適切な水管理を行きましょう。

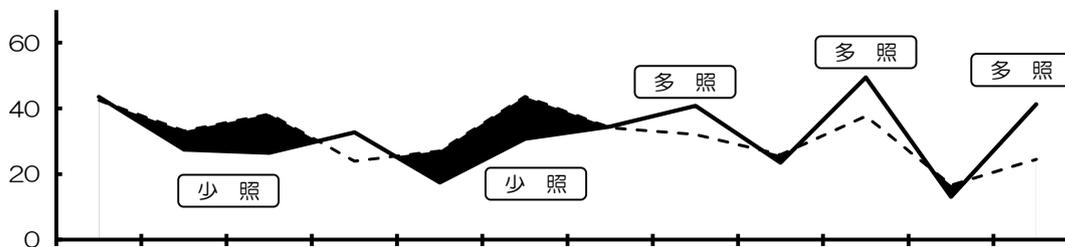
1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

6月第2半旬と第4半旬以降の気温はかなり高くなりました。第2、4、6半旬の日照時間はかなり多くなりました。東北南部は6月14日に梅雨入りしましたが、第4半旬以降の降雨は少ない状況です。

最高・最低気温（℃）



日照時間（時間）



降水量（mm）

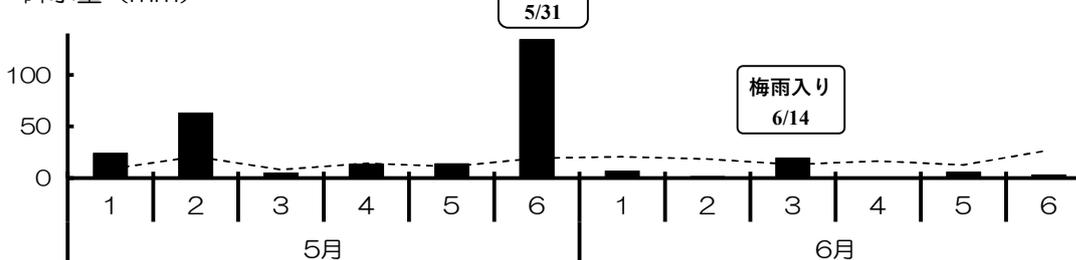


図1 5・6月の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較

2 生育概況（7月1日現在）

6月第2半旬以降は概ね高温多照で経過したことから、5月上旬植の生育は平年より旺盛で、0.1～0.5mmの幼穂も確認できます。しかし、5月下旬植ではまだ茎数が平年より少ない状況です。

乾田直播栽培でも分けつが進み、ササニシキでは、ほとんどのほ場で目標茎数（穂数目安420本～460本/m²、7/15 茎数の目安 590本～640本/m²）に達しています。

表1 生育調査結果

栽培様式	品種名	地区名	前作	田植日 播種日	7月1日					6月28日
					茎数 本/m ² (平年比)	草丈 cm (平年比)	葉色 GM (平年差)	生育量 茎数×草丈×葉色 (平年比)	幼穂長 mm	正規化 植生指数 NDVI
移植	ひとめぼれ	三本木	水稻	5/5 (+1)	645 (111%)	66.0 (114%)	46.9 (+3.9)	20.0 (133%)	0.5	0.75 -
		小野田	水稻	5/21 (+4)	294 (61%)	54.7 (109%)	43.2 (-1.8)	6.9 (63%)	-	0.71 -
	ササニシキ	古川	水稻	5/6 (-2)	563 (105%)	61.5 (118%)	42.2 (-0.8)	14.6 (122%)	0.1	0.68 -
	平均			5/10 (+1)	500 (92%)	60.7 (114%)	44.1 (+0.4)	13.8 (106%)	-	0.71 -
	乾田直播	ササニシキ	古川	大豆	4/28	409	34.4	33.0	4.6	-
三本木			大豆	4/10	656	48.2	43.2	13.6	-	0.63
			水稻	4/10	494	48.0	37.5	8.9	-	0.65
ふくひびき		色麻	大豆	4/22	422	63.2	38.9	10.4	-	0.60

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。乾田直播はいずれもグレーンドリル鎮圧方式による。

※平年比・差は前5か年（令和2～6年）の平均値との比較。

※生育量は茎数/m²×草丈cm×GM値÷10万で求める指標で追肥判断等の目安となります(3追肥を参照)。

※正規化植生指数は、ほ場管理者が契約するBASF社ザルピオ®・フィールドマネージャーによる。

表2 出穂期の予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期
	4月30日	5月10日	5月23日
幼穂形成始期	6月29日	7月4日	7月13日
減数分裂期	7月10日	7月15日	7月22日
出穂期	始期	最盛期	終期
	7月25日	7月29日	8月4日
平年（前5か年）との差	3日早い	2日早い	1日早い

出穂期は7月29日頃で、平年より2日早いと推定されます。
ただし、幼穂形成始期後に高温で推移すると、出穂期はさらに早まる可能性があります。

※7月1日現在（6/30まではR7年値、7/1以降は前11年平均値で計算）

3 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下（窒素栄養の不足）を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

1) 追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の効果に加え、表3のとおり施用時期によって異なる効果・影響が現れます。

表3 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

2) 生育量を基にした施肥判断

生育量が不足している（葉色が薄い、茎数不足等）場合には、追肥が必要ですが、過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、

生育量＝茎数（本/㎡）×草丈（cm）×葉色（GM値：SPAD-502の値）÷10万
を倒伏診断指標として、追肥の実施を判断しましょう。

表4 「ひとめぼれ」、「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×㎡茎数×葉色;10 ⁵)								減数分裂期(草丈×㎡茎数×葉色;10 ⁵)							
茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)						倒伏 危険域	I	II	III	I	II	III	
		38	40	42	44	46	48								34
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4								
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8								
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	倒伏							
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	危険域							
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I							
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II							
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III							
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8								
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5								
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I							
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	II							
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	III							
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2								
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9								
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	I							
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	II							
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III							
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0								
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9								
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8								
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7								
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II							
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	III							
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9								
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1								
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2								

倒伏危険域	
I	倒伏度2を超える確率5～20%
II	倒伏度2を超える確率20～50%
III	倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度	
0	1
1	2
2	3
3	4

3) 各品種の追肥の目安（施用時期・施用量）

品種によって施用時期・施用量が異なります。施用時期と葉色を判断し、適正量を施用しましょう。「だて正夢」の幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正籾数の確保に努めましょう。

表5 追肥の目安

品種名	幼穂形成期（幼穂長:1~2mm） 出穂25~20日前		減数分裂期（幼穂長:30~120mm） 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色（GM値）	施用量 (N成分/10a)	葉色（GM値）
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

4 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠

✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行きましょう。

用水不足が予想される地域では、**飽水管理**（田面が浸るくらいに水を入れ、足跡に水がなくなる頃に水を入れる）を行い節水に努めましょう。

低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがあるので、深水管理を行きましょう。

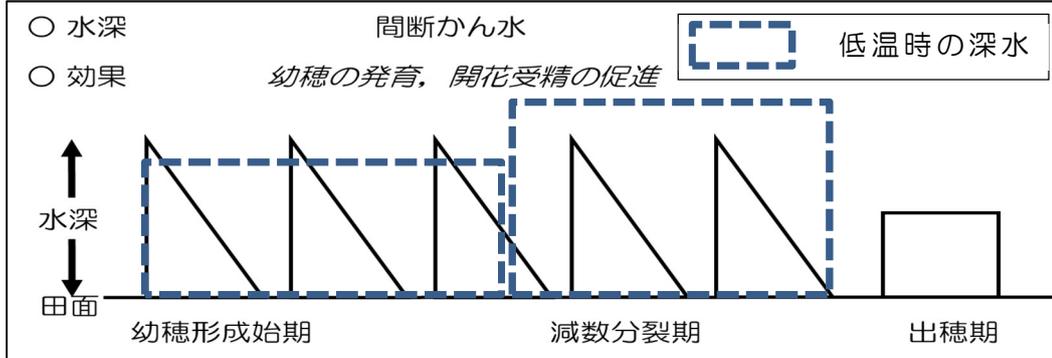


図2 今後の水管理

東北地方 1 か月予報（6月21日から7月20日までの天候見通し）

令和7年6月26日 仙台管区气象台 発表※抜粋

<予報のポイント>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・前半を中心に太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

<向こう1か月の天候> 平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北地方	40	40	20
【日照時間】	東北地方	20	30	50

<気温経過の各階級の確率 (%) >

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	20	70
3~4週目	東北地方	10	30	60

◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆◆◆

農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

★★

古川農試に設置されている生育モニタリングほ場（「だて正夢」・「金のいぶき」・直播栽培）や県内全体の水稻生育情報はこちらからご覧いただけます。

<<https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzyoho/index.html>>

★★



「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右の QR コードを読み取ってください。

